

事業成果報告書

1. 個人または団体名(団体の場合は代表者名も記入)
古橋 綾 (代表者名:)
2. 研究または活動のテーマ(課題名)
「内鮮結婚」と植民地主義：民族・ジェンダーの交差
3. 助成額
500,000 円
4. 実施期間
2016 年 8 月 ～ 2017 年 6 月
5. 実施状況
2016 年 8 月～12 月：ソウルにて資料調査(インターネット調査、国立中央図書館、国立国会図書館、延世大学中央図書館国学資料院、ソウル大学中央図書館古文庫資料室) 2017 年 1 月：資料調査(東京：国立国会図書館、大宅壮一文庫) 2017 年 2 月：関係者インタビュー調査(名古屋)・現地調査(舞鶴) 2017 年 2 月～4 月：当事者インタビュー(ソウル) 2017 年 4 月：関係者インタビュー調査・現地調査(韓国・木浦) 2017 年 5 月：現地調査(韓国・大邱) 2017 年 5 月：資料調査(東京：国立国会図書館、日本赤十字社赤十字情報プラザ、横浜：海外移住資料室) 2017 年 6 月：現地調査(韓国・済州) 2017 年 6 月末：関連論文掲載(「在韓日本人妻の経験による歴史の捉え直し：ポストコロニアリズムとジェンダーの交差から」漢陽大学日本学国際比較研究所『比較日本学』39 号：KCI 認定学術誌・査読有)

6. 事業成果と自己評価

研究内容 本研究は、大日本帝国の植民地主義についてジェンダーと民族が交差する地点からの再解釈を行うことを目指し、日本人と朝鮮人の結婚を奨励した「内鮮結婚」政策について議論をするものである。当初の研究課題として①「内鮮結婚」に関連する政策がどのように成立し、伝播されたのかについて明らかにする。政策考案の背景や実現までの葛藤、メディアの伝達方法、国民運動団体の対応について史料を検討する。②日本の植民地主義において民族及びジェンダーの概念が作用した方式について考察する。③民族とジェンダーの概念から日本と西欧の植民地主義の違いについて考察する。ことを設定していた。

研究成果

- 1) 政策・メディア(2016.8-10):「内鮮結婚」に関連する政策を整理し、当時の新聞及び雑誌での「内鮮結婚」をどのように言及しているかについて調査した。本研究の基礎を構築した。
- 2) 国民運動団体(2016.11-2017.1): 植民地期に活動した内鮮一体関連団体及び婦人団体の女性や結婚、セクシュアリティに関連する言及において「内鮮結婚」がどのように扱われているか、または扱われていないのかについて調査をした。扱われなかったことの意味を今後考察していく予定である。
- 3) 戦後/解放後の女性たちの人生(2017.2-6): 調査を進めるうちに、1945年8月を研究の区切りとすることに疑問を持つようになった。戦後の混乱期に結婚をし韓国に渡った日本人女性も多く、彼女たちのその後の人生は植民地主義が継続している状態に他ならないことを理解したためである。韓国に暮らす当事者2名及び1990年代以前に彼女たちを支援していた支援者らのインタビューを行い、書籍からだけでは分からない姿を捉えることを試みた。この内容を「在韓日本人妻の経験による歴史の捉え直し:ポストコロニアリズムとジェンダーの交差から」(漢陽大学校日本学国際比較研究所『比較日本学』39号:KCI認定学術誌・査読有)に発表した。
- 4) これまで集めた資料をもとに、今後、植民地期から戦後/解放後の「内鮮結婚」の状況について議論を深めていく予定である。

自己評価 本研究は当初、植民地期のみに着目し議論を展開する予定であり、また他の帝国が運営した植民地との比較を目指していた。しかし資料を調査していく過程において戦後/解放後までつながっている女性たちの人生を考察するほうが本研究が目指す議論にとってふさわしいと考えるようになり、戦後/解放後の内容を追加し、逆に地域を日本と朝鮮に絞る方向へと転換した。そのような事情もあり、期間内に提出できた研究成果が、申請時の内容とは若干異なっている点についてご容赦いただけたら幸いである。貴財団による基金をいただいたことで、東京にじっくりと滞在し資料調査することができ、また韓国各地にいる当事者や関係者のインタビューが可能となった。心から感謝申し上げたい。研究期間中に収集した大量の資料をひとつの研究物として論じ上げることを目下の課題としたい。